

研究報告書(菜の花グループ)

テーマ：小規模多機能型居宅介護

1. テーマの理由

私たちが活動した菜の花がある愛知県半田市には、小規模多機能型居宅介護が菜の花一つしかなく、市内で交流する機会がないため、小規模多機能型居宅介護が半田市ではまだ広がっていないと思い、研究してみた。

2. 研究方法

まず、小規模多機能型居宅介護について調べて、小規模多機能型居宅介護サービスを提供している菜の花と石川満クラスの専門演習Ⅰの学生が調査した名古屋市天白区の小規模多機能型居宅介護を比較した。

3.小規模多機能型居宅介護について

小規模多機能型居宅介護とは

小規模多機能型居宅介護とは、平成18年4月の介護保険制度改正により創設された、地域密着型サービスのひとつです。介護が必要となった高齢者が、「通い」を中心に「訪問」「泊まり」の3つのサービス形態が一体となり、中重度となっても在宅での生活が維持できるよう24時間365日切れ間なくサービスを提供できるのがその大きな特徴です。

1) 基本理念

- ① お年寄りの気持ちに向かい合い、寄り添う
 - ・本人の願いや希望を受け止め、それを叶える方法を考えます
 - ・そのため、単なるサービスの組み合わせを提供するのではなく、柔軟にサービスの形を変化させます
- ② 24時間365日、切れ目なく暮らしを支える
 - ・小規模多機能型居宅介護のサービスの基本は日中の通いですが、本人の状態や家族の状況に合わせて、継続した支援が提供できる体制を整えます
- ③ お年寄りが望む暮らしができるよう、支援の内容を調整する
 - ・本人の役割や地域の方々との関係を維持・継続できるように、家族や地域社会との関係まで見据えた関係調整（ケアマネジメント）を行います。

(小規模多機能ホーム研究会編集『小規模多機能型居宅介護開設の手引き』から抜粋)

2) 小規模多機能型居宅介護の3つの機能

① 通い

在宅で暮らし続けることを支える基本となるのが「通い」です。多くの多機能型事業所は、通いの機能をサービス利用の際の前提としており、自宅に来てくれる機能や宿泊の機能は、通いの機能の延長線上にあると位置づけています。

小規模ケアにおける通いの規模は、一般的に定員10人程度で、最大でも15人です。これは、お年寄り一人一人の個性を見極め、その人にあった支援を提供したりするのに大きすぎない規模だからです。

② 宿泊

「通い」と同じ場所を使い、同じスタッフが対応するのが、小規模多機能型居宅介護における「宿泊」の機能です。宿泊は通いの延長であると考えられます。

③ 訪問

従来 of 訪問看護とは異なり、自宅で過ごしている時間帯も「通い」や「宿泊」と同じスタッフが自宅に赴き安否を確認したり、一緒に時間を過ごすというものです。

3) 対象者と定員

1事業所あたりの登録定員・・・25名以下

利用できるのは主に認知症高齢者ですが、認知症以外でも利用できます。

地域密着型サービスである為、原則として利用者（登録者）は事業所と同一市町村に居住する者に限定されます。

4) 職員配置

- ・介護支援専門員1人は必置
- ・看護・介護職員

日中：通いの利用者3人に1人+訪問対応1人

夜間：泊まりと訪問対応で2人(一人は宿直可)

5) 事業所の立地

家庭的な雰囲気によるサービスを提供すること、また、地域との交流を図ることによる社会との結びつきを確保するため、住宅地の中にあることまたは住宅地と同程度に家族や地域住民との交流の機会が確保される地域の中に事業所を置かなければならない。

6) 小規模多機能型居宅介護のメリット・デメリット

・メリット

- ① 24時間365日切れ目なくサービスを利用できる。
- ② 定額制であるため、毎月決まった利用料さえ払えば、さまざまなサービスを何度でも

受けることができる。

- ③ 小規模な形態で、利用者と職員がなじみの関係を築きながらサービスを提供することができる。

・デメリット

- ① 一つの小規模多機能居宅介護事業者と契約すると他の事業所のサービスを一切利用できなくなる。
- ② 国は当初、中重度の介護等級の人が利用者になると想定していたが、実際には介護報酬が低い利用者が多く、施設運営が軌道に乗りにくい。

4.外部評価を元にした比較

私たちが、活動した小規模多機能型居宅介護菜の花の家～成岩と専門演習Ⅰの石川満クラスが調べた名古屋市天白区の5つの小規模多機能型居宅介護（小規模多機能生活介護ひらばり、デイホームあすか、ニチイのやわらぎ天白、ライフケア山根、デイホームふれんど）を、外部評価を元に、利用料金、登録者数、職員数などを下記の表①と②で比較した。

【考察】

名古屋市天白区の小規模多機能型居宅介護の宿泊費は安くて3000円で、高いと5000円に対し、菜の花では宿泊費は1500円と安い料金となっている事が分かる。また、職員の人数もほぼ変わらない。この事から、菜の花は特定非営利活動法人で、利益を主に目的としていないため、職員の人数も変わらなくても低料金でサービスを提供する事が出来ると言える。

共通点は、男性が女性より少ない事である。

菜の花は、絵手紙や折り紙など女性に対してレクリレーションが多いため、利用者の男性に対してのレクリレーションが少ないように感じた。

そのため、男性の方に楽しんでもらえるようなレクリレーションで、例えば、囲碁や将棋で楽しんでもらったり、散歩の際にも季節に触れ合える機会があるといい。

表① 小規模多機能型居宅介護菜の花の家～成岩

法人名(事業所名)	利用者/定数	要介護	利用料金	職員数
特定非営利法人 菜の花 (菜の花の家～成岩)	17/25 男性:4名 女性:12名	要支援1:0名 要支援2:0名 要介護1:4名 要介護2:4名 要介護3:7名 要介護4:1名 要介護5:0名	宿泊費(1泊): 1500円 朝食:320円 昼食:540円 夕食:540円	16名 常勤:10名 非常勤:6名 常勤換算: 11.5名

表② 名古屋市天白区の5つの小規模多機能型居宅介護施設

施設名	利用者/定数	要介護	利用料金	職員数
小規模多機能 生活介護 ひらばり	17/25 男性:5名 女性:12名	要支援2:1名 要介護1:4名 要介護2:1名 要介護3:7名 要介護4:2名 要介護5:1名	宿泊費(1泊): 4000円 朝食:400円 昼食:300円 夕食:500円	16名 常勤:6名 非常勤:14名 常勤換算: 5.6名
デイホーム あすか	13/25 男性:1名 女性:12名	要支援2:1名 要介護1:2名 要介護2:3名 要介護3:2名 要介護4:3名 要介護5:2名	宿泊費(1泊): 3000円 朝食:300円 昼食:600円 夕食:600円	16名 常勤:6名 非常勤:10名 常勤換算: 7.4名
ニチイの やわらぎ天白	9/24 男性:2名 女性:7名	要介護1:2名 要介護2:1名 要介護3:3名 要介護4:3名 要介護5:0名	宿泊費(1泊): 5000円 朝食:315円 昼食:525円 夕食:525円	12名 常勤:3名 非常勤:9名 常勤換算: 7.1名
ライフケア山 根	24/25 男性:6名 女性:18名	要介護1:4名 要介護2:1名 要介護3:7名 要介護4:2名 要介護5:1名	宿泊費(1泊): 4000円 朝食:450円 昼食:650円 夕食:800円	16名 常勤:11名 非常勤:5名 常勤換算: 13.7名
デイホーム ふれんど	10/24 男性:3名 女性:7名	要介護1:0名 要介護2:2名 要介護3:4名 要介護4:3名 要介護5:1名	宿泊費(1泊): 3000円 朝食:300円 昼食:350円 夕食:450円	10名 常勤:3名 非常勤:7名

『専門演習 I の石川満クラスの調べ』

【結論】

菜の花のような特定非営利活動法人の小規模多機能型居宅介護では、比較で分かったとおり、職員の人数は同じだが、宿泊費は低料金で安くサービスが受ける事が出来るという良い面がある。

併設されていない小規模多機能型居宅介護では、毎日通いたい人、何日も泊まりたい人にとって、小規模多機能型居宅介護がニーズに合わない事もある。そのような場合には、グループホームなどの施設が同じ敷地内に併設されている小規模多機能型居宅介護ならば、すぐに対応する事が出来る。

また、菜の花のある半田市では、小規模多機能型居宅介護が菜の花以外にはない。その原因は、小規模多機能型居宅介護は一つの小規模多機能居宅介護事業者と契約すると他の事業所のサービスを一切利用できなくなるため、登録者(利用者)が伸び悩むと考えられるからである。

実際に、小規模多機能型居宅介護をやっている菜の花で、もっと登録者を増やすためには、サービスの内容や利用料金などの良さを知ってもらう事が大切である。そのようなすれば、今までのサービスと同じ又はそれ以上のサービスが受けられるかどうかという不安

を取り除けて、安心してサービスを受ける事が出来ると考えられるからである。

つまり、小規模多機能型居宅介護は住み慣れた地域で暮らすためには必要なサービスである。

【参考文献】

- ・小規模多機能ホーム研究会編集『小規模多機能型居宅介護開設の手引き』筒井書房
2006
- ・産経新聞 2008年1月25日
- ・<http://www.wam.go.jp/> 12月8日